



【第3次】

# 佐野市小中一貫教育推進計画

～心豊かで 自ら学び たくましく生きる 児童生徒の育成を目指して～

令和8年4月

佐野市教育委員会

はじめに

近年のグローバル化などの社会的変化の中で、児童生徒を取り巻く環境も様々に変化し、児童生徒に関する課題も複雑化・多様化しています。特に、義務教育における学校種間の連携・接続については、全国で教育課題となり、とりわけ、中学校に入学後に、学習や生活の変化になじめず不登校になったり、いじめが急増したりする「中一ギャップ」が大きな課題となっていました。こうした中で、平成 18（2006）年から翌年にかけて、教育基本法、学校教育法が改正され、新たに義務教育の目的や目標が定められ、平成 20（2008）年の学習指導要領では、発達の段階に応じた学校段階間の円滑な接続を重視することが示されました。これを機に、小中連携教育や小中一貫教育が広がりを見せ、平成 27（2015）年には小中一貫教育を実施する義務教育学校が法制度化され、制度としても小中一貫教育が全国的に開始されました。

本市では、平成 18 年度に学校段階の円滑な接続を目指して小中連携教育の研究を始めました。その後、義務教育 9 年間を通して児童生徒を育成する小中一貫教育へ研究を発展させ、平成 24 年度に、「佐野市小中一貫教育推進計画【第 1 次】」を策定し、推進ブロックを定め、各ブロックの特色を生かした小中一貫教育を推進してきました。そして、平成 27 年度により具体的な方向性を示した「第 2 次推進計画」を策定し、取組を進めてきました。また、この間、「佐野市小中一貫教育推進計画」と整合性を図った「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」を策定し、教育内容というソフト面と学校施設というハード面の両面から、小中一貫教育を進めていくことを決めました。

この度の「佐野市小中一貫教育に関する基本方針」は、「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画（後期計画）改定版」の内容を踏まえ、本市がこれから進める小中一貫教育の基本方針を示しています。本計画に基づく取組を推進することで、総合的に本市の教育の質の向上を図りながら、これからの時代に必要とされる資質・能力を児童生徒に育ててまいります。

令和 8 年 4 月 佐野市教育委員会

# 目 次

## 第1章 佐野市のこれまでの小中一貫教育の取組

- 1 本市の小中一貫教育推進の経過
- 2 本市の小中一貫教育の現状

## 第2章 佐野市の小中一貫教育に関する基本方針

- 1 佐野市小中一貫教育グランドデザイン
- 2 小中一貫教育の捉え方
- 3 推進のキーワード：「『知る』『つなぐ』『見通す』の3ステップ」
- 4 小中一貫教育のねらいと取組内容
- 5 ねらい達成に向けた取組の内容
- 6 本市の小中一貫教育の推進と佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画との関連
- 7 佐野市の義務教育学校
- 8 小中一貫教育の推進体制
- 9 小中一貫教育推進に当たっての留意点

## 資料編

- ・ 小中一貫教育に関する児童生徒アンケート調査結果
- ・ 令和7年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査結果

# 第1章 佐野市のこれまでの小中一貫教育の取組

## 1 本市の小中一貫教育推進の経過

本市では、平成18年度から小中連携教育の研究を開始し、その成果を踏まえて、平成22年度から小中一貫教育についての研究に移行した。その後は、各推進ブロックで小中一貫教育の実践を積み重ね、義務教育9年間の系統性を意識した小中一貫教育を推進している。

### 第1段階

平成18～20年度

### 小中連携教育の推進

小学校と中学校の間の円滑な接続のための小中連携教育の在り方について研究した。

年 度	内 容
平成18年度 ～ 平成20年度	吾妻小学校と吾妻中学校を「体験活動ジョイント・プログラム」の研究推進校に指定し、小中連携について3年間の実践研究を行った。

### 第2段階

平成21～24年度

### 小中一貫教育の展開の検討

小中連携教育を一段階進め、目指す児童生徒像を共有し義務教育9年間を一体的に捉えた小中一貫教育の展開について検討し、「佐野市小中一貫教育推進計画【第1次】」を策定した。

年 度	内 容
平成21年度	○「小中一貫教育検討部会」の設置。 ・市教育委員会学校教育課・市教育センター内に設置し、今後の方向性や展開について研究した。
平成22年度	○「小中一貫教育調査研究委員会」の設置。 ・市教育センター内に設置し、市内小中学校教員により、本市の小中一貫教育の展望と課題について研究した。
平成23年度 ～ 平成24年度	○「小中一貫教育研究推進校」による研究推進。 ・佐野小学校と城東中学校を研究推進校に指定し、2年間の研究実践を行い、平成24年には、公開授業及び研究発表会を実施した。
平成24年度	○「佐野市小中一貫教育推進計画【第1次】」の策定 ○「小中一貫教育実施（推進）の手引き」の作成

### 第3段階

平成25～26年度

### 推進ブロックによる小中一貫教育の基礎作り

小中一貫教育を推進するための「推進ブロック」等を設定し、実践研究を開始した。また、「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」を策定し、複式学級の解消等を含めた施設一体型の小中一貫校＝義務教育学校の設置の考えを示した。

年 度	内 容
平成25年度 ～ 平成26年度	○パイロット校区の指定と推進ブロックの設置。 ・市内全中学校区をパイロット校区に指定し10の推進ブロックに分け、実践研究を推進した。 ○平成27年1月「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の策定

#### 第4段階

平成 27～令和元年度

推進ブロックによる小中一貫教育の推進①

「佐野市小中一貫教育推進計画【第2次】」を策定し、より具体的な推進の方向性を示し、推進ブロックでの実践を図った。また、「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画（後期計画）」を策定し、佐野市立学校の義務教育学校化の方向性を示した。

年 度	内 容
平成 27 年度	○佐野市小中一貫教育研究会による研究協議 ・本市における小中一貫教育の展開と今後の展望について。 ・研究協議結果を教育長へ答申。 ○平成 28 年 3 月 「佐野市小中一貫教育推進計画【第2次】」の策定
平成 28 年度～	「佐野市小中一貫教育推進計画【第2次】」に基づく実践の推進。
平成 29 年度	○平成 29 年 4 月 船津川小学校を植野小学校へ統合。
令和元年度	○令和元年 8 月 「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画（後期計画）」の策定

#### 第5段階

令和 2～令和 7 年度

推進ブロックによる小中一貫教育の推進②

「佐野市小中一貫教育推進計画【第2次】」に基づき、推進ブロックで実践を積み重ねた。また、本市初となる義務教育学校のあそ野学園義務教育学校、2校目の葛生義務教育学校が開校した。さらに、今後の整備方針を示した「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画（後期計画）改定版」と今後の小中一貫教育の基本方針を示した「佐野市小中一貫教育に関する基本方針」「実施の手引き（改定版）」を策定した。

年 度	内 容
令和 2 年度	○令和 2 年 4 月 あそ野学園義務教育学校の開校 ・旧田沼西中学校区内の小中学校（戸奈良小、三好小、山形小、閑馬小、下彦間小、飛駒小、田沼小の一部、田沼西中）を統合し、本市初となる施設一体型の小中一貫校が開校した。
令和 3 年度	○令和 4 年 1 月 「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画（後期計画）実施計画（1期）令和 5（2023）年度～令和 11（2029）年度」の策定
令和 5 年度	○令和 5 年 4 月 葛生義務教育学校の開校 ・旧葛生中学校区及び常盤中学校区の小中学校（葛生中、常盤中、葛生小、葛生南小、常盤小、氷室小）を統合した。
令和 7 年度	○令和 8 年 3 月 「佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画（後期計画）改定版」の策定 ○令和 8 年 3 月 「佐野市小中一貫教育推進計画【第3次】」「実施の手引き（改定版）」の策定

#### 第6段階

令和 8 年度～

推進ブロックによる小中一貫教育の推進③

年 度	内 容
-----	-----

## 2 本市の小中一貫教育の現状

本市では、平成 28 年度から全市的に小中一貫教育に取り組み始め、推進ブロック（一体型・分離型）ごとの特色を生かして実践を積み重ねてきた。実践を通して、小学校・義務教育学校前期課程と中学校・義務教育学校後期課程の教職員が、義務教育 9 年間を通して児童生徒を育成するという、系統性のある教育活動の重要性への理解が深まってきている。また、各推進ブロックでは、成果と課題を踏まえ、様々な取組を実施している。佐野市が目指す児童生徒像の育成のためにも、引き続き小中一貫教育のより一層の充実が必要である。

### (1) 各推進ブロックの教育課程等について

#### **成果** 【義務教育学校】

義務教育学校のあそ野学園と葛生では、地域の特色を生かすとともに、9 年間の系統性を確保した教育課程が編成され、教育活動が実施されている。

#### 【義務教育学校以外の推進ブロック】

全ての推進ブロックで、グランドデザイン、目指す児童生徒像等が策定され、それに基づいた取組が推進ブロックごとに実施されている。

#### **課題** 【義務教育学校】

前期課程の 45 分授業と後期課程の 50 分授業による日課にずれが生じることやスクールバスを利用に関して、前期課程と後期課程の下校時間を合わせなければならないこと、前期課程と後期課程の行事の調整などの課題が見られ、各学校の規模や実態に合わせた工夫改善が必要である。

#### 【義務教育学校以外の推進ブロック】

各推進ブロックとしての特色を、いかに出していくかを検討し、重点事項を明確にして教育活動を実施していくことが課題である。

### (2) 児童生徒に関連することについて

#### **成果** 【義務教育学校】

学びの連続性を意識した学習指導、施設一体型のメリットを生かした異学年交流、教育区分の 4・3・2 制を生かした取組の推進を図っている。また、義務教育学校の課題の一つとして挙げられることの多い 6 年生のリーダーの自覚についても、6

年生がリーダーになる活動や行事の実施を通して、計画的にその育成を図っている。様々な教育活動を通して、前期課程の児童は、後期課程の生徒を身近な手本として感じ、後期課程生徒は自分たちが目標とされる先輩である自覚をもって、学校生活を送ることができ、相乗効果が発揮されている。また、前期課程と後期課程が一緒の空間で日常的に生活することで、後期課程の生徒の思いやりの心の育成や人間関係の広がり、多様な意見に触れることができるなどの効果が見られている。

#### 【義務教育学校以外の推進ブロック】

小中共通での取組を検討し、計画的に小中一貫教育を実施している。

－主な取組事例－

[学習]・中学生による小学校での絵本の読み聞かせ活動

・学習の約束のすり合わせ

・家庭学習強調週間　・体育の補強運動　・小中の部活動交流など

[生活]・ノーメディアデー　・中学生の小学校での合同あいさつ運動

・小中合同いじめ0サミット

・統一した生活指導（立腰、あいさつ、靴のかかとそろえ等）など

[行事]・統合する小学校同士の合同校外学習や宿泊学習

・小中合同レクリエーション

・中学進学ガイダンス

・小学校の運動会での中学生のボランティア活動

・中学生による母校の小学校での奉仕活動

・小中同一テーマの学校保健委員会など

#### 課題

#### 【義務教育学校】

学校の規模によって児童生徒間の交流方法、交流の場の調整などを工夫する必要がある。

#### 【義務教育学校以外の推進ブロック】

学校間の距離によって、直接的な交流が難しい。よって、オンラインによる交流を計画するなど、児童生徒が小中の結び付きを自覚し、「中1ギャップ」などの小中の段差解消につながる取組を推進していく必要がある。

### (3) 教職員に関連することについて

#### 成果

#### 【義務教育学校】

打合せ等による意思疎通を重ね、前期課程と後期課程の教職員が一つの教職員集団として一体感を保持しながら、学習指導や児童生徒指導に当たっている。1名の校長のリーダーシップの下に、前期課程と後期課程の教職員の連携し、それぞれのよさを生かしながら、学習活動の充実や児童生徒の健全育成に努めている。

#### 【義務教育学校以外の推進ブロック】

小中の教職員の連携を図る取組を計画的に実施している。

－主な取組事例－

[会議] 小中一貫教育推進会議、専門部会（知・徳・体）等

[研修会] 小中合同授業研究会、小中合同研修会、各教科部会、小中異校種交流等

[情報交換会] 進学に関する情報交換会、特別支援教育に関する情報交換会等

#### 課題 【義務教育学校】

教職員集団としてのチーム力をより高めるために、学び合い文化の醸成など、学校の実態に応じた方策の工夫改善を図る必要がある。

また、年度当初には異動してきた教職員へ義務教育学校について、研修の機会を設けるなど、丁寧な支援が必要である。

#### 【義務教育学校以外の推進ブロック】

学校間の距離、複数の学校との調整が、小中一貫教育を推進する上で課題となっている。また、小中の教職員が小中一貫教育の必要性・重要性について理解を深めることも必要である。定期的な対話の場を設定し、推進ブロックの目指す児童生徒像の共有化を図るなど、意識の向上を図っていく必要がある。

#### (4) 保護者・地域に関連することについて

成果 義務教育学校の開校を通して、保護者・地域へ、本市が小中一貫教育を推進していることは、少しずつ浸透してきていると考える。

課題 令和8年度から、全校がコミュニティ・スクールとなるため、その組織を活用して、保護者・地域の小中一貫教育の理解を深めていく必要がある。

また、推進ブロックの取組を市や学校のホームページ等で周知していくことも必要である。市としても小中一貫教育に関するPRを更に積極的に推進していく必要がある。

## 第2章 佐野市が推進する小中一貫教育

### 1 佐野市小中一貫教育グランドデザイン

# 佐野市小中一貫教育グランドデザイン

教育の質を高め、「心豊かで、自ら学び、たくましく生きる児童生徒」の育成を図る

「豊かな心」の育成

「確かな学力」の定着

「健やかな体」の育成

<佐野市のめざす教育の3本柱>

## 小中一貫教育

段差の緩和・円滑な接続

系統的かつ柔軟な教育課程

切れ目ない指導・支援

義務教育9年間を一体的に捉え系統的・連続的に学習します

9年間を見通して知・徳・体をバランスよく育てます

児童生徒

保護者

目指す児童生徒像の共有  
学び合い 高め合い

教職員

地域

互いに知り、学びや成長をつなぎ、見通す佐野市の小中一貫教育

キャリア教育

道徳教育

義務教育学校

学習指導

児童生徒指導

特別支援教育

人権教育

健康安全教育

国際教育

佐野市  
小中一貫教育  
の3ステップ

知る

つなぐ

見通す

情報教育

小学校

中学校

#### ステップ1「知る」

小学校及び義務教育学校前期課程の教職員、児童が、中学校及び義務教育学校後期課程の人(教職員、生徒)・学習の様子を「知る」  
中学校及び義務教育学校後期課程の教職員、生徒が、小学校及び義務教育学校前期課程の人(教職員、児童)・学習の様子を「知る」  
保護者・地域が本市の小中一貫教育について「知る」

#### ステップ2「つなぐ」

児童と生徒を「つなぐ」 学習内容を「つなぐ」 教職員と児童生徒を「つなぐ」 学校・保護者・地域を「つなぐ」

#### ステップ3「見通す」

学校・保護者・地域との連携・協働のもと、義務教育9年間の学習内容を「見通した」教育を行う

## 佐野市が取り組む小中一貫教育の内容

### 1 確かな学力の定着による 主体性と創造性の育成を図る教育の充実

- (1) 義務教育9年間を見通した学習指導
- (2) 小中（前期課程・後期課程）連携による学習習慣の確立
- (3) 外国語教育の充実
- (4) 小学校（前期課程）における一部教科担任制の実施
- (5) 小中（前期課程・後期課程）共通の成果と課題の共有による学習指導の重点化

### 2 豊かな人間性や社会性の育成、 国際性の涵養を図る教育の充実

- (1) 心の教育の推進
- (2) 9年間を見通した児童・生徒指導の充実
- (3) 9年間を見通した特別支援教育の充実
- (4) 豊かな体験活動の充実
- (5) キャリア教育の充実
- (6) 国際教育の充実

### 3 たくましく生きるための体力と 実践力の育成を図る教育の充実

- (1) 健康・体力増進に関する教育の充実
- (2) 安全管理の徹底と安全教育の充実

### 4 9年間を通して児童生徒を育てるとい う教職員の意識の向上

- (1) 義務教育修了段階でのゴールの共有化
- (2) 小中一貫教育の推進を担う教職員集団の構築

### 5 小中一貫教育に関する 保護者や地域の理解の深まり

- (1) 保護者への啓発の推進
- (2) コミュニティ・スクールの活用

## 2 小中一貫教育の捉え方

佐野市教育委員会では、小中一貫教育を次のように捉えている。

小中一貫教育は、義務教育9年間の連続した学びの中で、佐野市の児童生徒に豊かな心、確かな学力、健やかな体の育成を図る教育であり、本市の教育の質を高める方法・手段である。

本市では、義務教育9年間を一体的に捉え、児童生徒の成長の連続性や学習の系統性などを重視した小中一貫教育を行うことで、義務教育修了時に必要とされる学力、豊かな人間性や社会性の育成を図りたいと考えている。

## 3 推進のキーワード：『知る』『つなぐ』『見通す』の3ステップ

### 互いに知り、学びや成長をつなぎ、見通す佐野市の小中一貫教育

グラウンドデザインに示したとおり、小中一貫教育の推進のキーワードとして、『知る』『つなぐ』『見通す』の3ステップを設定し、段階的に小中一貫教育を推進していく。

#### ステップ1「知る」

- 小学校及び義務教育学校前期課程の教職員、児童が、中学校及び義務教育学校後期課程の人（教職員、生徒）・学習の様子を「知る。」
- 中学校及び義務教育学校後期課程の教職員、生徒が、小学校及び義務教育学校前期課程の人（教職員、児童）・学習の様子を「知る。」
- 保護者・地域が本市の小中一貫教育について「知る。」

#### ステップ2「つなぐ」

- 児童と生徒を「つなぐ。」 学習内容を「つなぐ。」 教職員と児童生徒を「つなぐ。」
- 学校・保護者・地域を「つなぐ。」

#### ステップ3「見通す」

- 学校・保護者・地域の連携・協働のもと、義務教育9年間の学習内容を「見通した」教育を行う。

## 4 小中一貫教育のねらいと取組内容

小中一貫教育は、佐野市の教育の質を総合的に高める効果的な手段であると考え、小中一貫教育を通して、本市の育成を目指す児童生徒像である「心豊かで、自ら学び、たくましく生きる児童生徒」の育成を図ることをねらいとしている。そして、その達成に向けて、次の

5つの分野の充実を図るものとする。

### 佐野市の小中一貫教育のねらい

小中一貫教育を通して、総合的に佐野市の教育の質を高め、本市の目指す児童生徒像「心豊かで、自ら学び、たくましく生きる児童生徒」の育成を図る。

#### 佐野市が取り組む小中一貫教育の内容

取組の3つのポイント	ポイント1 小学校と中学校の段差の緩和・円滑な接続	ポイント2 系統的かつ柔軟な教育課程	ポイント3 切れ目ない指導・支援
①確かな学力の定着による主体性と創造性の育成を図る教育の充実	②豊かな人間性や社会性の育成、国際性の涵養を図る教育の充実	③たくましく生きるための体力と実践力の育成を図る教育の充実	
④9年間を通して児童生徒を育てると いう教職員の意識の向上		⑤小中一貫教育に関する保護者や地域の理解の深まり	

#### 5 ねらい達成に向けた取組の内容

①～③の教育の充実と教職員の意識の向上、保護者や地域の理解の深まりに関して、次の内容に取り組む。

#### (1) 確かな学力の定着による主体性と創造性の育成を図る教育の充実

##### ○義務教育9年間を見通した系統的な学習指導

系統的な学習指導による基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用した思考力、判断力、表現力の育成を図る。

##### ○小中学校（前期課程・後期課程）の連携による学習習慣の確立

推進ブロックで学習のきまりの整合性を図るなど、学習習慣の確立を図る。

##### ○外国語教育の充実

小中（前期課程・後期課程）の外国語指導の連携に努め、学びの連続性を踏まえた外国語教育の充実を図る。

##### ○小学校（前期課程）における一部教科担任制の実施

小学校（前期課程）高学年から一部教科担任制を必要かつ可能な範囲で導入し、授業形態をそろえることによる小中学校間の円滑な接続を図る。

##### ○小中（前期課程・後期課程）共通の成果と課題の共有による学習指導の重点化

小中合同の研修会等を通して、小中（前期課程・後期課程）共通の成果と課題を共有し学習指導の重点化を図る。

## (2)豊かな人間性や社会性の育成、国際性の涵養を図る教育の充実

### ○心の教育の推進

異年齢の児童生徒の交流活動や推進ブロック内の小中（前期課程・後期課程）、小中の交流等の促進や家庭、地域社会との連携により、心の教育の推進を図る。

### ○9年間を見通した児童・生徒指導の充実

9年間を見通したいじめや不登校の未然防止、小中（前期課程・後期課程）での情報交換・情報共有を一層推進するとともに、「中一ギャップの解消」の取組の充実を図る。

### ○9年間を見通した特別支援教育の充実

小中（前期課程・後期課程）での個別の指導計画等の引継ぎや情報交換・情報共有をより充実させ、将来の自立に向けた指導支援の充実を図る。

### ○豊かな体験活動の充実

豊かな体験活動を実施できるように、地域の特色を生かした取組の充実を図る。

### ○キャリア教育の充実

9年間を見通した系統的なキャリア教育の充実を図り、児童生徒に学ぶことや働くことへの意欲を高め、望ましい勤労観や職業観を育む。

### ○国際教育の充実

外国語教育の充実、日本語教室による指導の充実等を通して、国際性の涵養を図る。

## (3)たくましく生きるための体力と実践力の育成を図る教育の充実

### ○健康・体力増進に関する教育の充実

9年間の系統的な指導を意識した健康・体力増進の取組の工夫改善を図る。

### ○安全管理の徹底と安全教育の充実

「危機管理マニュアル」等のすり合わせ、通学路の危険箇所の共有化、災害対応の共有化等を図り、児童生徒の安全確保を図る。

## (4)9年間を通して児童生徒を育てるという教職員の意識の向上

### ○義務教育修了段階でのゴールの共有化

推進ブロックのグランドデザインと目指す児童生徒像を理解し、義務教育修了段階でどのような生徒に育ててほしいかというゴールの共有化を図るための研修会や情報交換会等の取組の推進を図る。

### ○小中一貫教育の推進を担う教職員集団の構築

小中一貫教育の必要性を認識し、小学校と中学校の文化の違いを受け入れながら、推進ブロックの目標に向け、果たすべき役割を自覚し協働できる教職員集団の構築を図る。

## (5)小中一貫教育に関する保護者や地域の理解の深まり

### ○保護者等への啓発の推進

各学校のホームページや市教育委員会によるリーフレット等により、本市の小中一貫教育について、保護者や地域への啓発を計画的に推進する。

### ○コミュニティ・スクールの活用

令和8年度から全ての市立学校に学校運営協議会が設置され、地域ぐるみで児童生徒の健全育成を支えていくコミュニティ・スクールとなるため、その仕組みを活用して、本市の小中一貫教育について、地域の理解を深める。

## 6 本市の小中一貫教育の推進と佐野市立小中学校適正規模・適正配置基本計画との関連

本市の学校教育\* **より一層の小中一貫教育の推進と充実を図る。**

**小中一貫教育の推進には、義務教育9年間の教育課程の作成、実施、検証、改善が可能な施設一体型の小中一貫校＝義務教育学校が最適である。**

### 今後の佐野市立学校の整備方針

計画期間	計画の名称
平成26年度～令和4年度	佐野市立小中学校適正規模・適正配置 基本計画【前期計画】
令和5年度～25年間	佐野市立小中学校適正規模・適正配置 基本計画【後期計画】
令和5年度～令和11年度	佐野市立小中学校適正規模・適正配置 基本計画実施計画(Ⅰ期)
令和7年度～令和36年度	佐野市立小中学校適正規模・適正配置 基本計画【後期計画】改定版

### 《整備の目的》

- ①市立学校の小規模校化・大規模校化に伴う課題の解消(適正規模)
- ②施設老朽化への対策(施設の老朽度)
- ③適正配置の基準を踏まえた通学区域の設定(適正配置)

## 佐野市の義務教育学校

義務教育学校では、義務教育9年間で1つの学校で過ごし、切れ目ない指導・支援を受けながら、様々な学習や活動に取り組み、安定した学校生活を過ごすことができる。

### 【佐野市立義務教育学校の主な教育的効果】

- 日常的な前期課程と後期課程の児童生徒の交流を通して、下学年への思いやり、上学年への憧れ、自尊感情の高まりなどにつながっています。
- 教職員の緊密な連携ができることで、系統的な学習指導や実態に即した児童・生徒指導につながっています。
- 前期課程と後期課程の教職員や児童生徒が常に一緒の学校にすることで、後期課程への進学への不安軽減につながっています。
- 1年生から9年生までの児童生徒が1つの学校に在籍していることで、前期課程と後期課程の接続を意識した「4・3・2制」の実施など、義務教育学校ならではの特色ある教育活動の実施につながっています。
- ふるさと学習等の推進により、「地域のことを学ぶ、地域の方から学ぶ、地域の方と一緒に学校行事を作り上げる」雰囲気醸成されています。

## 8 小中一貫教育の推進体制

### (1) 推進の型と推進ブロックについて

令和8年度からは、義務教育学校と将来（義務教育学校）型の2種類で小中一貫教育を推進していく。

#### 義務教育学校

推進ブロック	学 校 名
あそ野学園	あそ野学園義務教育学校
葛生	葛生義務教育学校

#### 将来（義務教育学校）型 ※将来、義務教育学校になる小中学校

佐野西 令和10年度開校予定 かえで義務教育学校	西中 天明小 植野小 旗川小 <u>吾妻小</u>
佐野城東 令和13年度開校予定	城東中 佐野小 天明小 城北小
田沼東 令和18年度開校予定	田沼東中 田沼小 吉水小 <u>栃本小</u> <u>多田小</u>
佐野北（堀米地区） 令和22年度開校予定	北中 城北小
佐野北（犬伏地区） 令和30年度開校予定	北中 犬伏小 犬伏東小
佐野南（植野地区）	南中 植野小
佐野南（界地区）	南中 界小
赤見	赤見中 赤見小 石塚小 <u>出流原小</u> ※赤見小と出流原小は令和9年度に統合予定

アンダーラインは小規模特認校

## (2) 推進における留意事項

- ア 義務教育学校として小中一貫教育を実施できるようになるまでには、推進ブロックごとに差がある。開校を見据えて、計画的に小中一貫教育を推進していくが、特に、小規模校については、小規模特認校制度を踏まえながら、今後の小規模校の在り方について検討していく。
- イ 適正規模を確保した義務教育学校を整備しながら、小中一貫教育の推進と充実を図っていくが、児童生徒の学びの多様な選択肢についても考慮に入れ、適正規模の学校以外の学び場の在り方についても検討していく。
- ウ 開校後は、「将来（義務教育学校）型」の取組から「義務教育学校」としての取組へ移行する。取組内容については次項の推進の型の取組内容及び「実施の手引き（改定版）」を参照すること。
- エ 佐野北推進ブロックは、現在の北中、城北小、犬伏小、犬伏東小による小中一貫教育を進めながら、堀米地区と犬伏地区の義務教育学校の開校年度を踏まえた取組を検討していく。佐野南推進ブロックも、佐野北推進ブロックの様子に配慮していく。

## (3) 推進の型の取組内容について

### ア 各型の取組内容

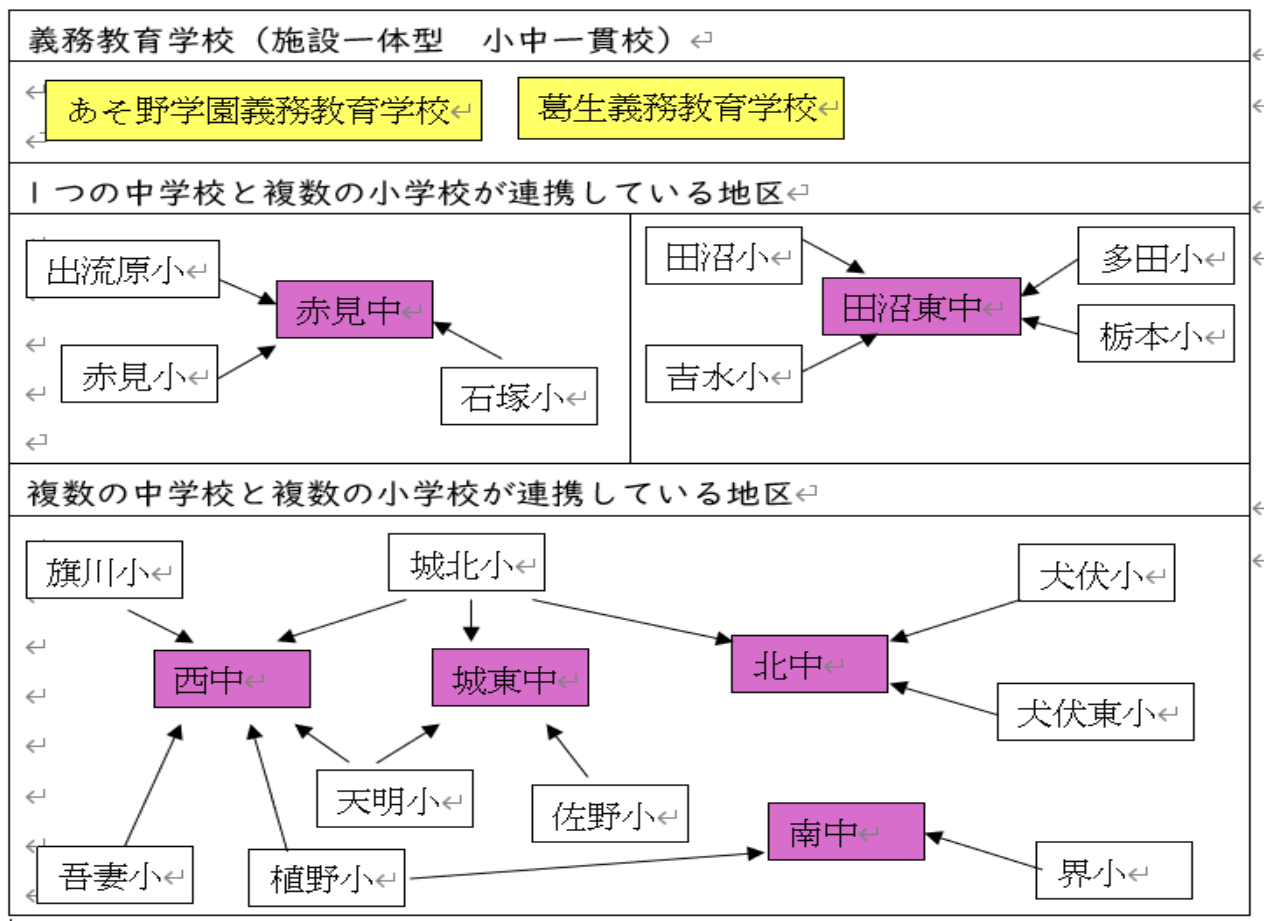
#### ① 義務教育学校

施設一体型の小中一貫校の特色を生かした、9年間の系統性を確保した教育課程を編成し、系統的な教育を推進する。

#### ② 将来（義務教育学校）型

- ・各推進ブロックで作成した経営方針である「〇〇推進ブロック小中一貫教育グランドデザイン」等を基に、各推進ブロックの実態に応じた特色ある小中一貫教育を実施する。
- ・児童生徒の交流、教職員の交流、児童生徒と教職員の交流を促進し、人的・物的連携の充実を図る。
- ・現在の小中一貫教育を進めながら、義務教育学校の開校を見据えて、教育課程の編成等の準備を計画的に実施する。
- ・保護者・地域の小中一貫教育への理解度を把握し、小中一貫教育の成果や課題について検証するために、各学校の学校評価に小中一貫教育に関する項目を追記することを検討する。

(4) 中学校区 (令和8年3月現在)



9 小中一貫教育推進に当たっての留意点

(1) 学年区分

教育区分		基礎期				充実期			発展期		
学年	小中学校	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
区分	義務教育学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	
学校区分		小学校 [前期課程]						中学校 [後期課程]			

義務教育学校では、学年区分を、小中の接続期間を重視した「4・3・2制」とする。ただし、「4・3・2制」を生かした取組については、開校時から意識しつつも、無理のないところから実施を検討していくものとする。

将来(義務教育学校)型では、「6・3制」を維持しつつ、将来の開校に向けて「4・3・2制」を踏まえた児童生徒間交流等を検討し、実施していくものとする。

(2) グランドデザイン、教育目標、教育課程

小中一貫教育推進の型	グランドデザイン 目指す児童生徒像	教育目標	教育課程
義務教育学校	策定済み	策定済み	9年間の系統性を確保した教育課程を編成し、実施する。
将来（義務教育学校）型	策定済み ※開校に合わせて 計画的に再検討し、 義務教育学校とし てのグランドデザ イン等を策定する。	開校に合 わせて検 討し、策 定する。	将来の開校に合わせて、先行 事例をもとに、9年間の系統 性を確保した教育課程を計画 的に編成していく。なお、開 校までに時間がある場合に は、重点的に取り組む項目を 決めるなど、工夫して実施す る。

(3) 特色ある教育活動

ア 地域の教育力を生かした教育活動の実施

小中一貫教育推進の型	地域の教育力を生かす方向性
義務教育学校	統合した学区の教育力（ひと・もの・こと）を生かして、9年間の系統性のある教育活動を実施する。
将来（義務教育学校）型	現学区の教育力を生かした教育活動を実施しながら、統合予定の学区の教育力を洗い出し、将来の開校に合わせて、9年間の系統性のある教育活動を計画的に編成していく。

イ 郷土愛を醸成する教育活動の実施（ふるさと学習の推進）

義務教育学校の特色としての教科	学校名
「新教科」を実施している学校	あそ野学園義務教育学校 葛生義務教育学校
「生活科、総合的な学習の時間」 に特色を持たせて実施する学校	かえで義務教育学校 将来（義務教育学校）型

現在、新教科を実施している学校は、あそ野学園義務教育学校（きらりあそ野科）と葛生義務教育学校（くずう未来科）である。かえで義務教育学校については、新教科は設けず、生活科と総合的な学習の時間を通して、地域の特色を生かした教育活動を展開する予定である。今後開校する義務教育学校については、3校の状況を踏まえた上で、新教科の取り扱いを決定していく。

新教科、生活科、総合的な学習の時間のいずれかの実施になった場合でも、PDCA サイクルにより、児童生徒に郷土愛を醸成する教育内容をよりよいものに改善し、その目的が達成できるように推進していくことが重要である。

(4) 教職員及び児童生徒の交流

将来（義務教育学校）型では、各推進ブロックの実態を踏まえ、合同の行事等の開催や小中の円滑な接続を図る取組、学校間の連携などを、計画的・段階的に進めていく。

(5) 検証・改善サイクル

各推進ブロックの小中一貫教育をより推進するために、その取組について、PDCA サイクルを回しながら、検証し、改善していく。

各推進ブロックは、その年度の取組内容を報告書にまとめ、市教育委員会へ提出し、市教育委員会は、その内容を把握し、よりよい取組となるよう必要に応じて指導助言する。

## 資料編

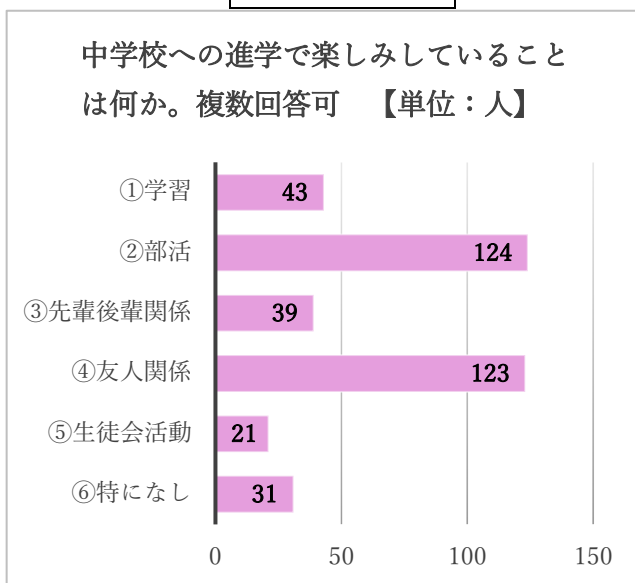
### 1 児童生徒への小中一貫教育に関するアンケート調査結果

〈方法〉抽出した小学校2校、中学校2校、義務教育学校2校の5・6年生及び中学1年生・7年生に小中一貫教育に関するアンケート調査を実施した。

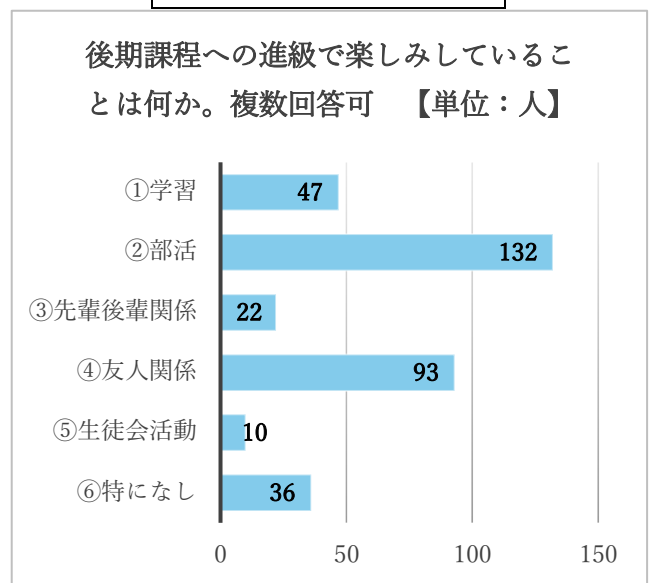
〈調査人数〉 小学5・6年生 120名      義務教育学校5・6年生 222名  
 中学1年生 183名      義務教育学校7年生 101名

〈結果〉

小学5・6年生



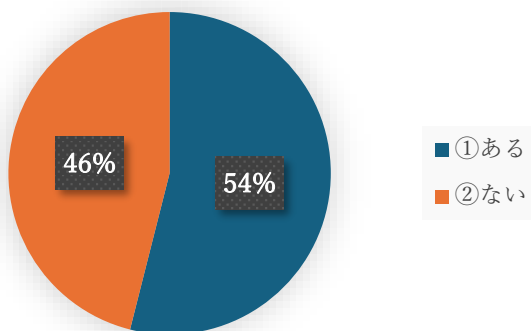
義務教育学校5・6年生



進学又は進級での楽しみなことは、部活が1位で、次いで、友人関係であり、小学校も義務教育学校も分布の傾向は、同じであった。

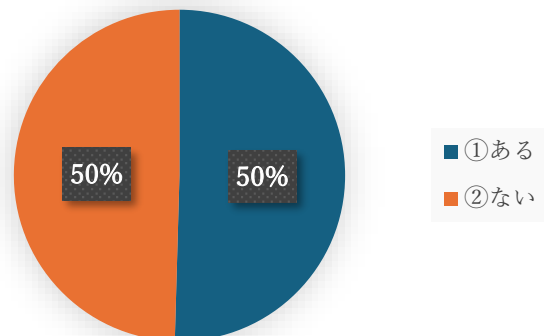
中学校への進学に不安があるか。

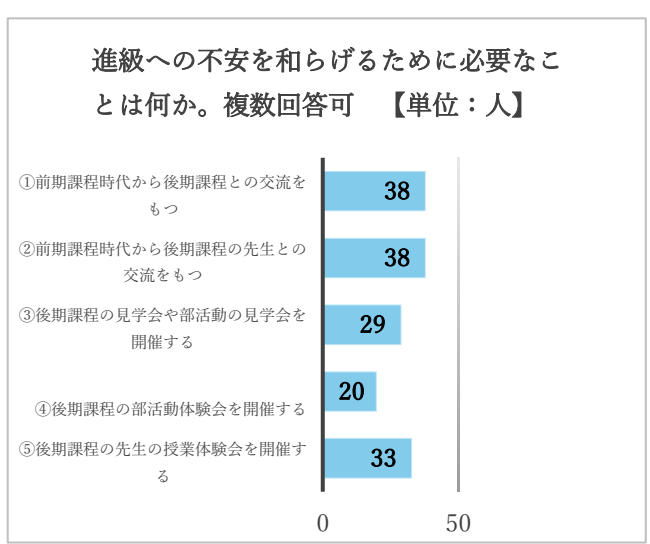
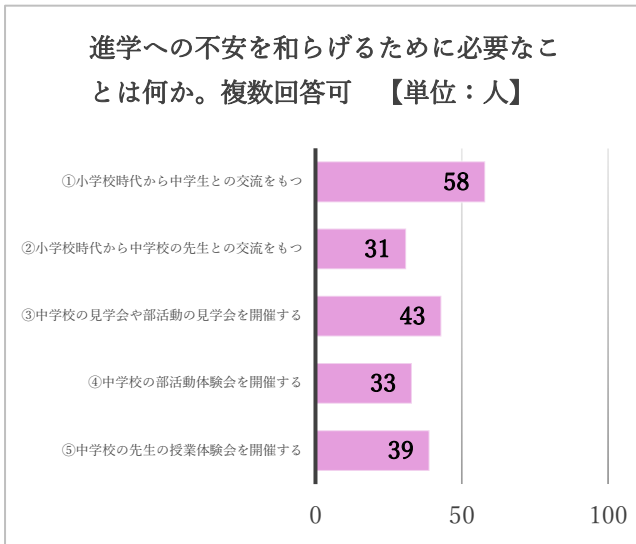
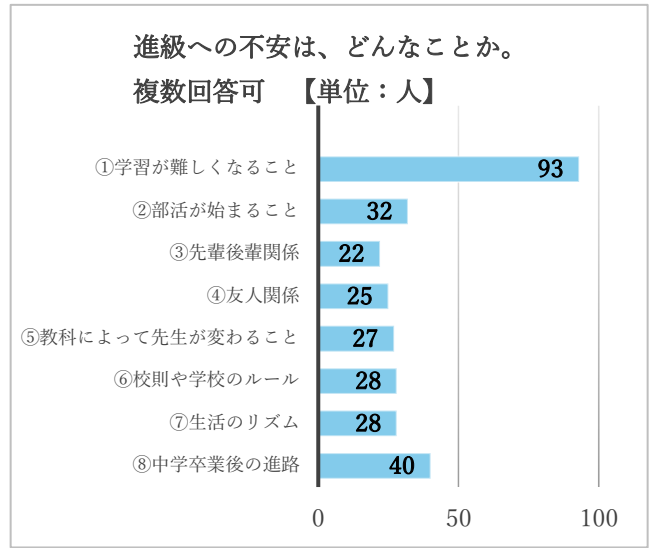
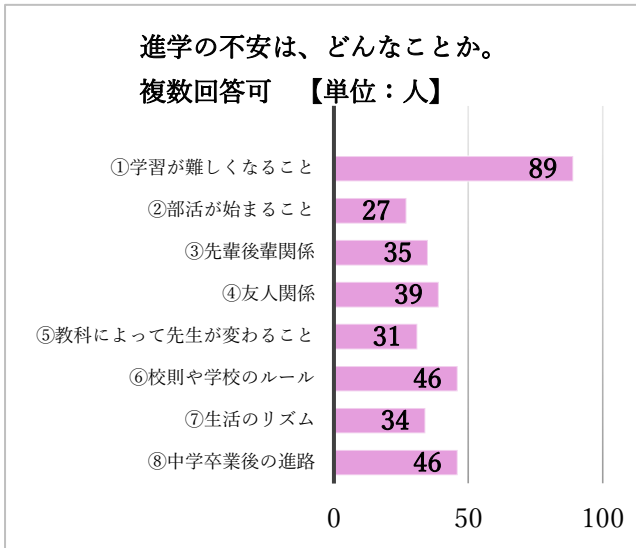
【単位：％】



後期課程への進級に不安があるか。

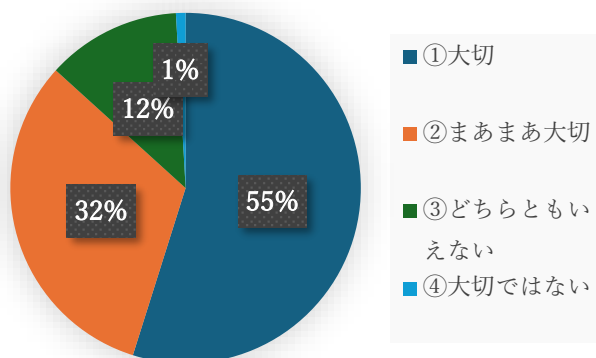
【単位：％】



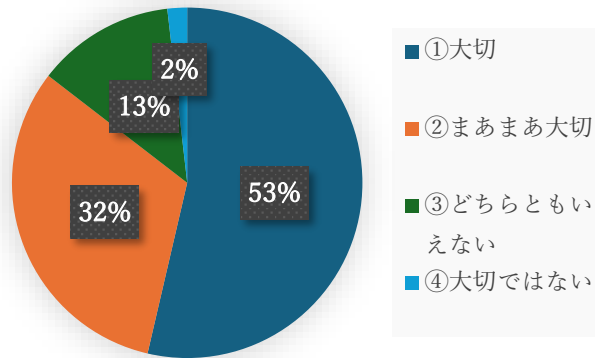


進学又は進級への不安を抱えている児童が、小学校・義務教育学校で同程度見られる。不安な理由として、学習を挙げている児童が多い。不安を和らげるために必要なこととして、小学校では、中学生との交流が一番多く挙げられているが、義務教育学校では後期課程との交流、後期課程の先生との交流が同数の一位となっており、同一施設内で、前期課程と後期課程の児童生徒、教職員が共に生活し、交流が進められていることが、同数の要因と捉えている。また、中学校・後期課程の授業体験会を望む意見も多く見られた。

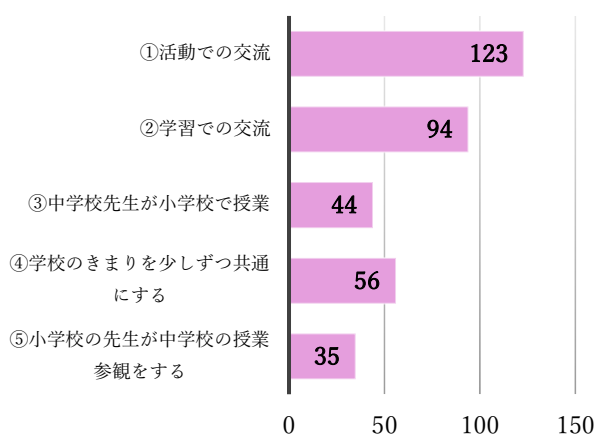
小学校と中学校のつながり（交流）をもつことについて、どう考えるか。【単位：％】



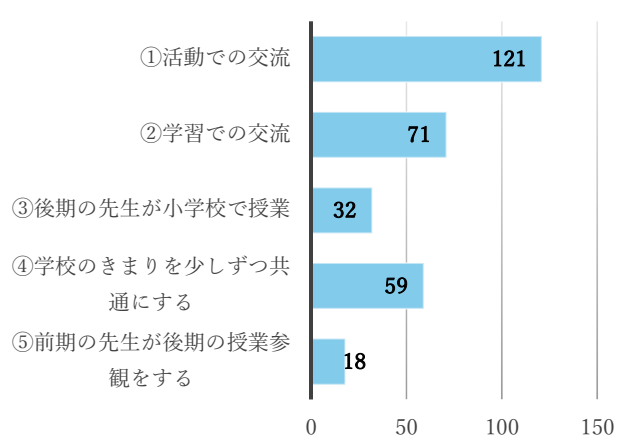
前期課程と後期課程のつながり（交流）をもつことについて、どう考えるか。【単位：％】



小学校と中学校のどんなつながり（交流）が大切か。複数回答可 【単位：人】

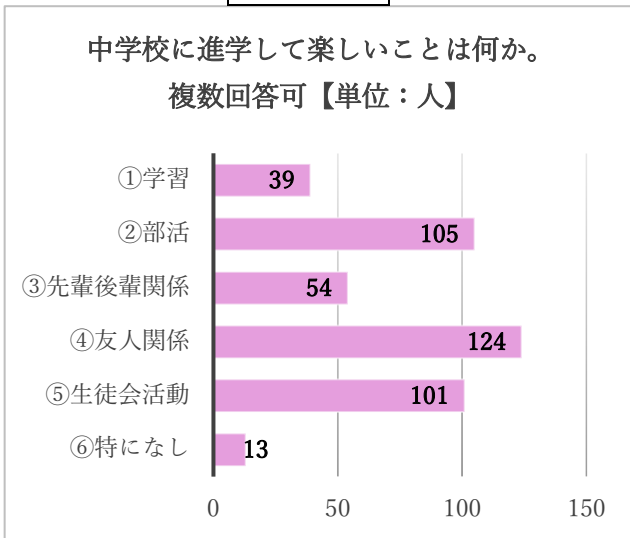


前期課程と後期課程のどんなつながり（交流）が大切か。複数回答可 【単位：人】



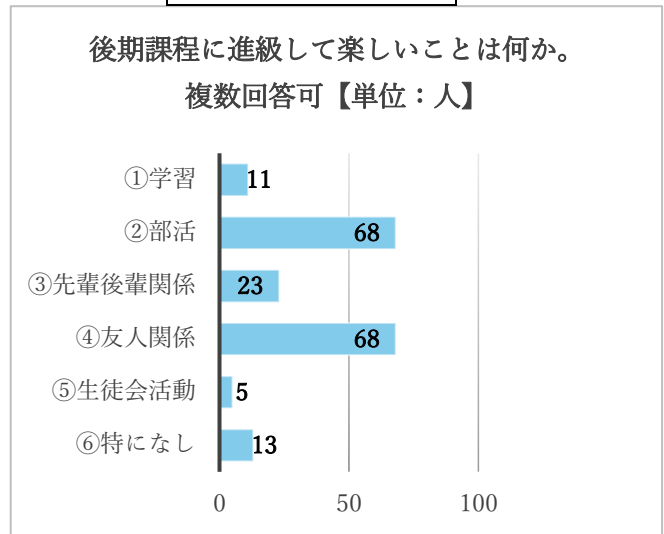
つながり（交流）をもつことについては、小学校・義務教育学校ともに、8割の児童が大切であると捉えている。つながりの在り方についても、小学校・義務教育学校ともに、同じような傾向を示し、活動や学習での児童生徒間交流、学校のきまりを少しずつ共通にしていくことが大切であると感じている。

中学1年生

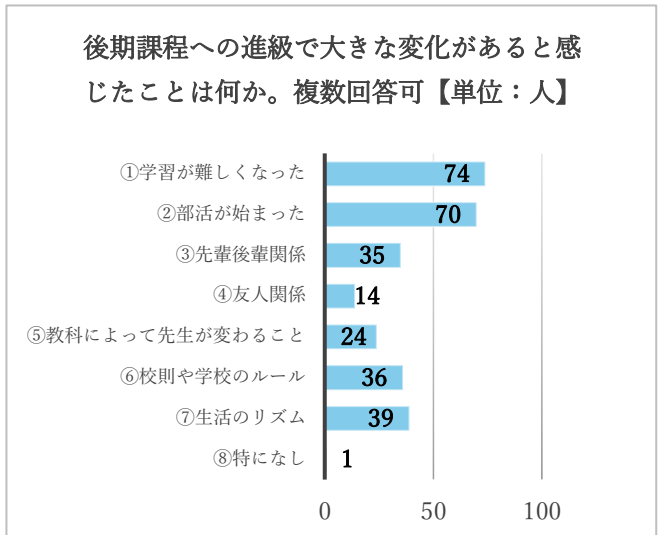
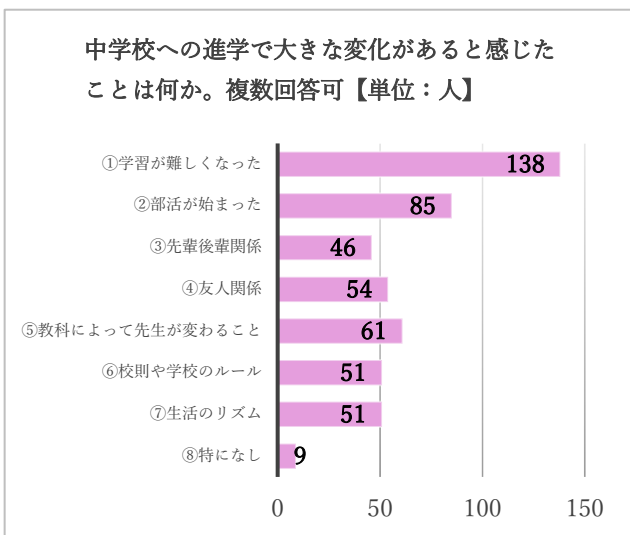


※その他の意見：学校行事、クラスマッチ

義務教育学校7年生

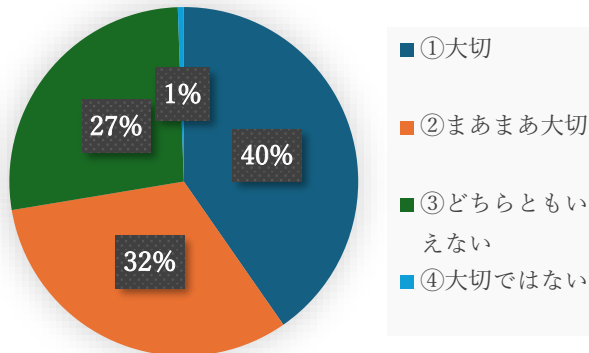


※その他の意見：修学旅行

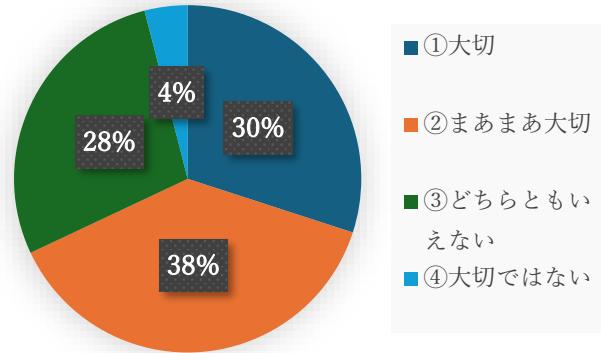


進学又は進級で楽しかったこととして、部活と友人関係が上位を示すなど、回答の傾向はほぼ同じであった。また、進学又は進級での大きな変化についても、「学習が難しくなった」、「部活が始まった」ことが上位を示したことは同じであった。しかし、義務教育学校では、極端に少ない値ではないが、友人関係や教科担任制を、生徒は大きな変化とは捉えていないことがうかがえる。9年間同じ学校に同じ仲間と通学することや前期課程への後期課程の教員が乗り入れ授業等を実施していることが、その要因として考えられる。

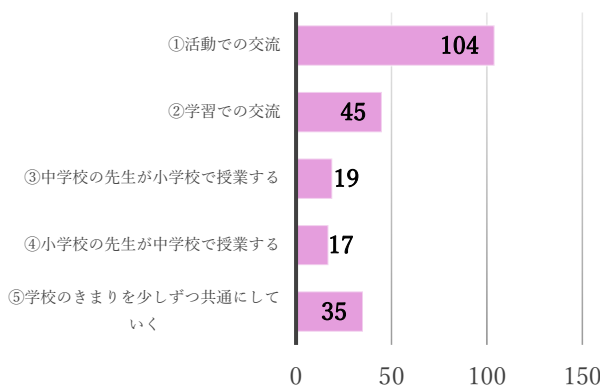
小学校と中学校のつながりをもつことについて、どう考えるか。【単位：％】



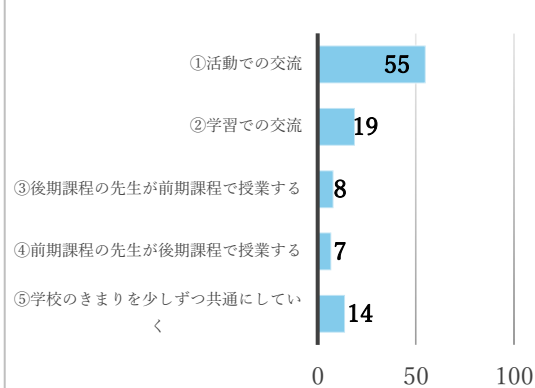
前期課程と後期課程のつながりをもつことについて、どう考えるか。【単位：％】



小学校と中学校のどんなつながりが大切か。複数回答可【単位：人】



前期課程と後期課程のどんなつながりが大切か。複数回答可【単位：人】



児童生徒のつながり（交流）については、小学校・義務教育学校ともに、7割の生徒が大切であると感じている。つながりの在り方については、児童生徒間の活動での交流を大切であると感じている生徒が多く、それ以外の項目の回答の傾向も、ほぼ同じであった。

#### まとめ

上記のアンケート調査から、小学校・義務教育学校ともに、進学又は進級に関して、学習面など、何らかの不安を抱えていることがうかがえる。また、進学又は進級では、学習が難しくなる、部活が始まるなど、大きな変化があったと感じている生徒が多く見られる。また、小中学校間、義務教育学校前期課程と後期課程でのつながりをもつことについては、大切であると感じている児童生徒が多数を占め、つながり（交流）としては、児童生徒間の活動による交流、学習での交流、学校のきまりを少しずつ共通にしてい

くことなどが必要であると考えているようだ。  
そこで、これらの児童生徒の考えや意見は、第3次佐野市小中一貫教育推進計画で示した「義務教育9年間を見通した系統的な学習指導」「小中学校（前期課程・後期課程）の連携による学習習慣の確立」「心の教育の推進」等の取組に反映させ、小中一貫教育を推進していくものとする。

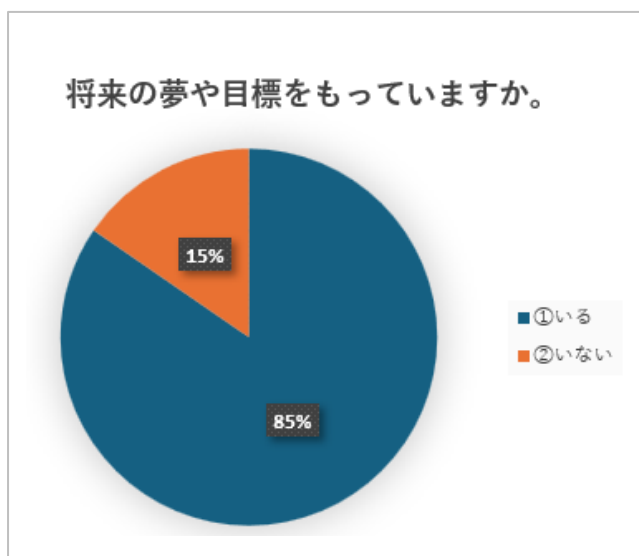
## 2 令和7年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査結果

〈方法〉 小学校16校、中学校6校、義務教育学校2校の6年生及び中学3年生の全児童生徒の回答結果を比較

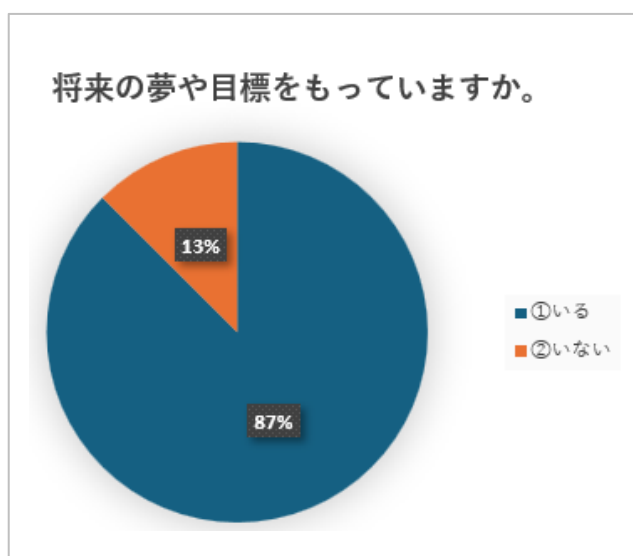
〈結果〉

【質問項目①：将来の夢や希望をもっていますか。】

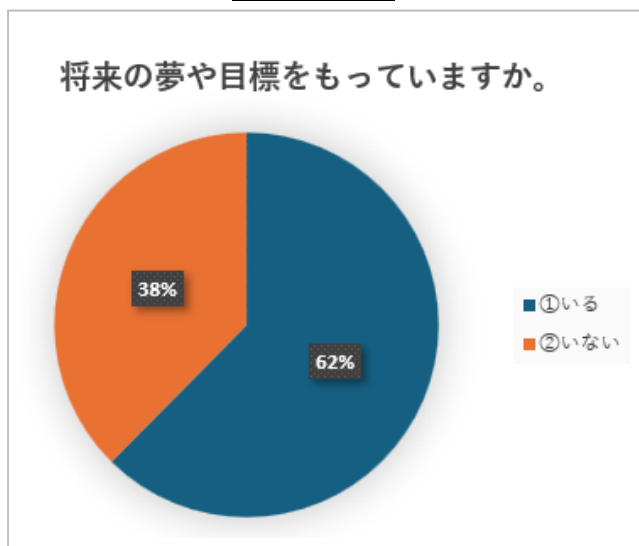
小学6年生



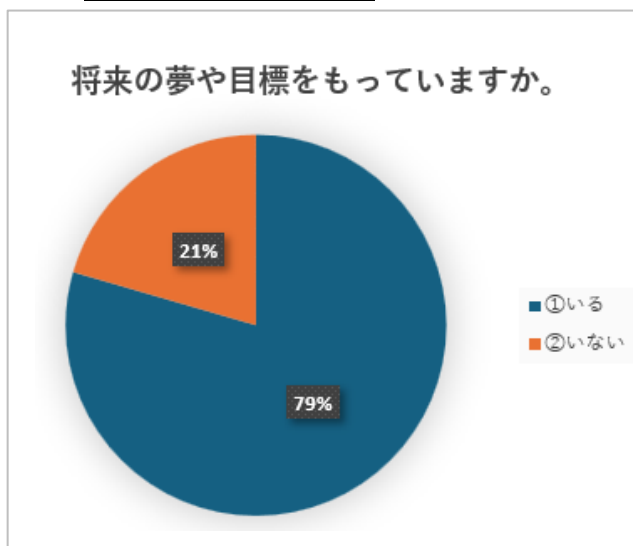
義務教育学校6年生



中学3年生



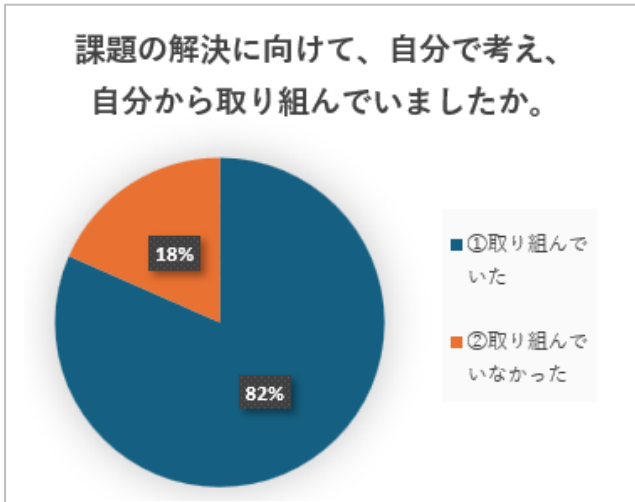
義務教育学校9年生



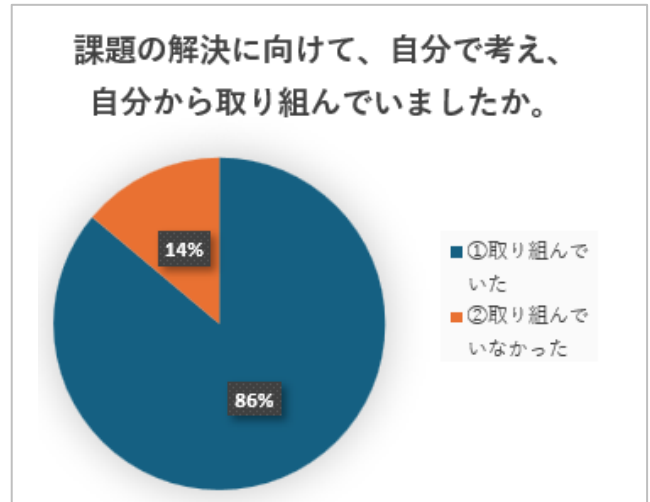
「将来の夢や目標もっていますか。」の質問項目については、小学校・義務教育前期課程では、同程度であったが、中学校・義務教育学校後期課程においては、義務教育学校後期課程の方が大きく上回っている。

【質問項目②：課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。】

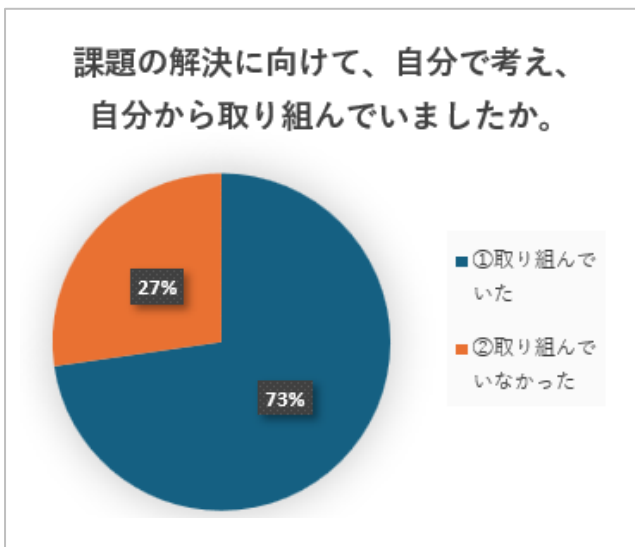
小学6年生



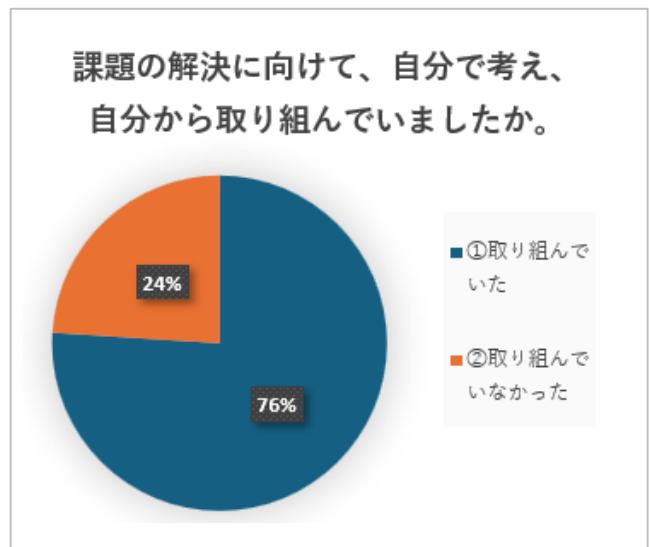
義務教育学校6年生



中学3年生



義務教育学校9年生

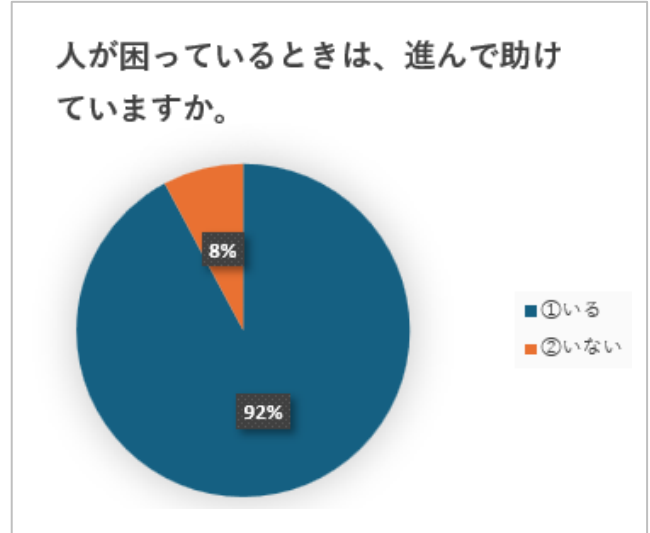
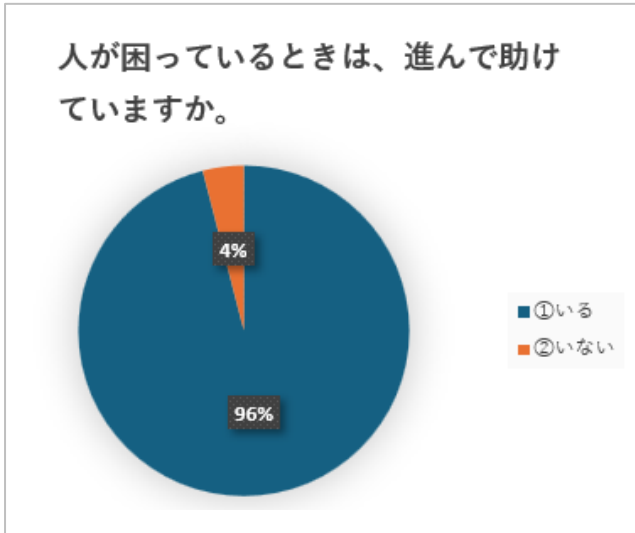


「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目については、小学校・義務教育前期課程及び中学校・義務教育学校後期課程の両方において、義務教育学校がやや上回っていた。

【質問項目③：人が困っているときは、進んで助けていますか。】

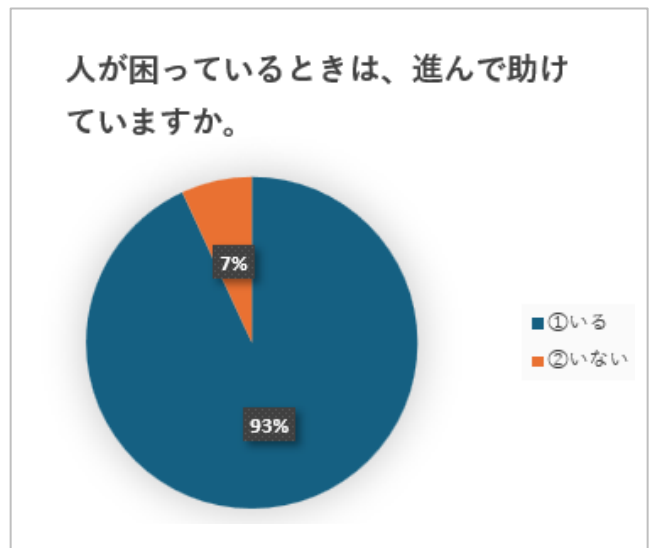
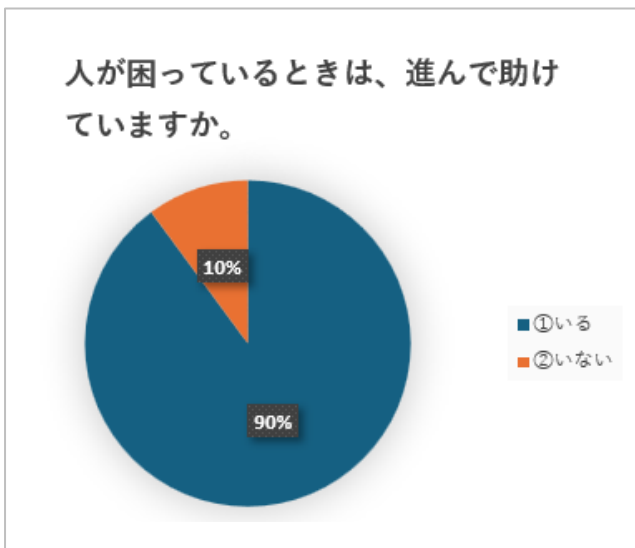
小学6年生

義務教育学校6年生



中学3年生

義務教育学校9年生



「人が困っているときは、進んで助けていますか。」の質問項目については、小学校・義務教育前期課程では、小学校の方がやや上回っている。一方で、中学校・義務教育学校後期課程においては、義務教育学校後期課程の方がやや上回っており、施設一体型で、1年生から9年生が共に学校生活を送ることの効果や、9年間を見通した指導の成果が表れていると考えられる。

【第3次】佐野市小中一貫教育推進計画  
令和8年4月

発行 佐野市教育委員会

編集 佐野市教育委員会学校教育課

〒327-8501 栃木県佐野市高砂町1番地

TEL 0283-20-3107

FAX 0283-20-3032

E-mail [kyoikushidou@sano.ed.jp](mailto:kyoikushidou@sano.ed.jp)

URL <http://www.city.sano.lg.jp>